

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲	第	号
------	-----	---	---

氏 名 日 比 展 昭

論 文 題 目

Relationship Between Retinal Layer Thickness and Focal Macular
Electroretinogram Components After Epiretinal Membrane Surgery

(特発性黄斑上膜手術前後の黄斑部局所網膜電図と層別網膜厚の関係)

論文審査担当者

主 査

委 員

員

名古屋大学教授

高橋 雅 英

名古屋大学教授

委 員

員

中島 裕

名古屋大学教授

委 員

員

長 聡 恒 二

名古屋大学教授

指 導 教 授

寺崎 浩子



論文審査の結果の要旨

特発性黄斑上膜は中高年者にみられ、網膜上に膜状の組織が増殖して黄斑部の網膜が肥厚し、変視や視力低下の原因となる疾患である。以前より黄斑部局所網膜電図を用いて特発性黄斑上膜の網膜機能について研究がされてきたが、各網膜厚との相関については当時の光干渉断層計の解像度が低く、層別に形態と機能の関係を明らかにすることはできなかった。近年、スペクトラルドメイン光干渉断層計が開発され、網膜を層別に解析することが可能になった。

本研究では特発性黄斑上膜に対して硝子体手術を施行された連続 15 例 17 眼において、黄斑部局所網膜電図の各成分とスペクトラルドメイン光干渉断層計による層別の網膜厚の相関について術前と術後 6 か月の変化で検討した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下の通りである。

1. 特発性黄斑上膜は黄斑部網膜上に膜状の組織が増殖して肥厚する疾患で、硝子体手術にて増殖した膜を除去することにより網膜の形態と機能が改善していた。
2. 近年、フーリエ空間を利用し解像度の改善したスペクトラルドメイン光干渉断層系が開発され、網膜を層別に把握することができるようになった。特発性黄斑上膜の手術後の網膜を層別に解析したところ、網膜内層厚と中層厚が減少していた。
3. b波と律動様小波の術前と術後 6 か月の変化が中層網膜厚の術前と術後 6 か月の変化と有意な相関がみられ、特発性黄斑上膜の手術による網膜機能の改善は網膜中層の形態変化によることが示唆された。

本研究は黄斑部局所網膜電図を用いた客観的検査において、特発性黄斑上膜の網膜中層における形態と機能の関係を明らかにしたものである。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	日比展昭
試験担当者	主査	高橋雅彦	仲島稀	長紀恒
	指導教授	寺崎浩子		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 特発性黄斑上膜の病態と治療について
2. スペクトラルドメイン光干渉断層計の特徴について
3. 特発性黄斑上膜の黄斑部局所網膜電図と層別網膜厚の関係について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、眼科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。